



## 2024年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年7月13日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福  
コード番号 9601 URL <https://www.shochiku.co.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 高橋 敏弘  
問合せ先責任者（役職名） 上席執行役員 （氏名） 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699  
四半期報告書提出予定日 2023年7月13日 配当支払開始予定日 ー  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年2月期第1四半期の連結業績（2023年3月1日～2023年5月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第1四半期	23,182	24.0	2,411	—	1,928	132.4	1,629	△73.4
2023年2月期第1四半期	18,697	30.5	△724	—	829	—	6,128	—

（注）包括利益 2024年2月期第1四半期 4,194百万円（△27.2%） 2023年2月期第1四半期 5,760百万円（—）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第1四半期	118.61	—
2023年2月期第1四半期	446.26	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第1四半期	184,421	90,260	48.9	6,563.93
2023年2月期	178,803	86,482	48.3	6,289.19

（参考）自己資本 2024年2月期第1四半期 90,163百万円 2023年2月期 86,391百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年2月期	—	—	—	—	—
2024年2月期（予想）	—	0.00	—	30.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年2月期の連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	92,460	18.2	2,230	—	1,380	1.5	1,000	△81.8	72.80

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期1Q	13,937,857株	2023年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2024年2月期1Q	201,666株	2023年2月期	201,406株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期1Q	13,736,259株	2023年2月期1Q	13,733,221株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は緩やかに持ち直しているものの、世界的な金融引締めに伴う海外景気の下振れ、物価上昇、供給面での制約等の影響など先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めて参りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高23,182百万円(前年同期比24.0%増)、営業利益2,411百万円(前年同期は営業損失724百万円)、経常利益1,928百万円(同132.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,629百万円(同73.4%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (映像関連事業)

配給は、邦画1作品、洋画1作品、シネマ歌舞伎、ME Tライブビューイング、松竹ブロードウェイシネマ等を劇場公開し、「なのに、千輝くんが甘すぎる。」が興行収入10億円を超えるヒットとなりました。また、新橋演舞場にて公演の舞台「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」の映画館生中継を行いました。

興行は、「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」の映画館生中継が好評であった他、「名探偵コナン 黒鉄の魚影(サブマリ)」 「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」等のアニメ作品の大ヒットにより好調に推移いたしました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売は、堅調に推移いたしました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング㈱において計画通りに利益を確保いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は13,563百万円(前年同期比41.9%増)、セグメント利益は2,324百万円(前年同期はセグメント損失973百万円)となりました。

#### (演劇事業)

歌舞伎座は、「三月大歌舞伎」「鳳凰祭四月大歌舞伎」「團菊祭五月大歌舞伎」の公演を行いました。これまでは三部制興行を執り行っておりましたが、4月「鳳凰祭四月大歌舞伎」より昼夜二部制での公演としております。

新橋演舞場は、「青春POP ROCK『ルーザーヴィル』」「舟木一夫 シアターコンサートin 新橋演舞場」「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」「少年忍者『俺たちのBANG!!!~大劇場を占拠せよ~』」等多彩なラインナップでの公演を行いました。「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」は日本全国の上映映画館にて劇場生中継を開催しました。

大阪松竹座は、全ての公演に「大阪松竹座開場100周年記念」と銘打ちまして「東西ジャニーズJr. Spring Paradise」「青春POP ROCK『ルーザーヴィル』」「垣根の魔女」「松竹新喜劇 五月新緑公演」「少年忍者『俺たちのBANG!!!~大劇場を占拠せよ~』」の公演を行った他、開場100周年を記念して「道頓堀 松竹座 映画祭」を開催いたしました。

南座は、「三月花形歌舞伎」「若き日の親鸞」「南座 歌舞伎鑑賞教室」「舟木一夫シアターコンサート in 南座」の公演を行った他、「春の舞台体験ツアー」を実施いたしました。

その他の直営劇場以外の公演としては、「歌うシャイロック」をサンシャイン劇場で公演を行いました。さらに「青春POP ROCK『ルーザーヴィル』」は御園座でも上演致しました。

巡業は、「十三代目 市川團十郎白猿襲名巡業」「垣根の魔女」の公演を行いました。

シネマ歌舞伎では、「月イチ歌舞伎2023」にて4月から毎月、人気の名舞台を上映いたしました。ME Tライブビューイング2022-23シーズンで4作品が公開されました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,045百万円(前年同期比17.1%増)、セグメント損失は304百万円(前年同期はセグメント損失749百万円)となりました。

#### (不動産事業)

不動産賃貸事業では、既存テナントとの良好な関係構築や空室の戦略的リーシング活動に努めることで、歌舞伎座タワーや銀座松竹スクエアなどの主要物件が高稼働し、計画通りの収益確保に貢献しました。

また、前期に設立した東銀座エリアマネジメント活動における一般社団法人とまちづくり推進協議会は1周年を迎え、地域貢献及びエリアの価値向上のための連携強化に取り組みました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,066百万円(前年同期比11.7%減)、セグメント利益は1,381百万円(同25.8%減)となりました。

#### (その他)

プログラム・キャラクター商品販売は、「なのに、千輝くんが甘すぎる。」「東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編」「滝沢歌舞伎ZERO FINAL」等を中心に収益に貢献しました。

イベント・オンライン配信は、4月に幕張メッセにて超歌舞伎2023「御伽草紙戀姿絵」を開催し、好評を得ました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は507百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント損失は205百万円(前年同期はセグメント損失129百万円)となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,618百万円増加し、184,421百万円となりました。これは主に投資有価証券が増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,840百万円増加し、94,161百万円となりました。これは主に「固定負債」のその他の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ3,777百万円増加し、90,260百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の増加及び親会社株主に帰属する四半期純利益等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては2023年4月14日付「2023年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,113	17,412
受取手形、売掛金及び契約資産	7,469	7,717
商品及び製品	1,701	1,584
仕掛品	3,953	4,610
原材料及び貯蔵品	117	120
その他	2,420	2,156
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	31,772	33,599
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,836	39,367
設備（純額）	9,712	9,441
土地	39,688	39,688
その他（純額）	3,799	3,661
有形固定資産合計	93,036	92,158
無形固定資産		
その他	1,914	1,899
無形固定資産合計	1,914	1,899
投資その他の資産		
投資有価証券	33,467	38,136
退職給付に係る資産	159	187
その他	18,539	18,527
貸倒引当金	△86	△86
投資その他の資産合計	52,079	56,764
固定資産合計	147,030	150,822
資産合計	178,803	184,421

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,116	6,930
短期借入金	4,871	5,821
1年内返済予定の長期借入金	17,404	19,603
未払法人税等	865	630
賞与引当金	527	398
その他	7,776	8,234
流動負債合計	37,561	41,617
固定負債		
長期借入金	33,887	30,686
役員退職慰労引当金	212	218
退職給付に係る負債	1,767	1,787
資産除去債務	1,512	1,519
その他	17,380	18,332
固定負債合計	54,759	52,543
負債合計	92,320	94,161
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,157	30,157
利益剰余金	13,576	14,791
自己株式	△1,464	△1,467
株主資本合計	75,288	76,500
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,426	13,972
為替換算調整勘定	△63	△63
退職給付に係る調整累計額	△259	△245
その他の包括利益累計額合計	11,102	13,663
非支配株主持分	91	96
純資産合計	86,482	90,260
負債純資産合計	178,803	184,421

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
売上高	18,697	23,182
売上原価	11,436	12,896
売上総利益	7,261	10,285
販売費及び一般管理費	7,986	7,874
営業利益又は営業損失(△)	△724	2,411
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	0	1
持分法による投資利益	29	—
雇用調整助成金	41	5
補助金収入	1,367	70
その他	386	52
営業外収益合計	1,827	132
営業外費用		
支払利息	150	127
借入手数料	45	116
持分法による投資損失	—	324
その他	77	47
営業外費用合計	273	615
経常利益	829	1,928
特別利益		
固定資産売却益	6,985	—
資産除去債務戻入益	15	—
事業譲渡益	—	200
特別利益合計	7,000	200
特別損失		
固定資産除却損	5	1
災害による損失	52	—
特別損失合計	58	1
税金等調整前四半期純利益	7,771	2,127
法人税、住民税及び事業税	575	512
法人税等調整額	1,412	△19
法人税等合計	1,987	492
四半期純利益	5,784	1,634
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△343	5
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,128	1,629



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	5,784	1,634
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20	2,544
退職給付に係る調整額	△2	14
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	△24	2,560
四半期包括利益	5,760	4,194
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,104	4,189
非支配株主に係る四半期包括利益	△343	5

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年5月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	9,555	5,161	3,472	507	18,697	—	18,697
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	44	67	511	87	710	△710	—
計	9,599	5,229	3,984	595	19,408	△710	18,697
セグメント利益又は 損失(△)	△973	△749	1,861	△129	8	△733	△724

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△733百万円には、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△734百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年5月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	13,563	6,045	3,066	507	23,182	—	23,182
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	28	47	493	30	599	△599	—
計	13,592	6,092	3,559	537	23,781	△599	23,182
セグメント利益又は 損失(△)	2,324	△304	1,381	△205	3,196	△785	2,411

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△785百万円には、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△786百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。